

【笠戸島「瀬戸内漁業拠点」創出プロジェクト】(～2019年秋頃)

背景

- 下松市の漁獲量は、高齢化、後継者不足、水産資源の減少等に伴い、大幅な減少傾向にある。
- 本市は、観光・特産品などにおいて知名度の高い資源に乏しく、各種アンケート等においてもネガティブな回答が多くみられる(RESASによると、宿泊者数も県内市で最低となっている)。
- 宿泊施設、名物「笠戸ひらめ」を養殖する「下松市栽培漁業センター」などを擁する笠戸島をはじめ、市内の資源が十分に活用されていない。



下松市栽培漁業センターを「養殖・生産、啓発、観光拠点、マーケティング、ブランディング」などの総合拠点施設に進化

事業概要

(1) 管理棟建設

栽培漁業、研修、ブランディング研究など 調理室等での特産品開発、研修、体験学習など
生産性の向上や付加価値創造、地産地消などの啓発等

(2) 研修棟建設

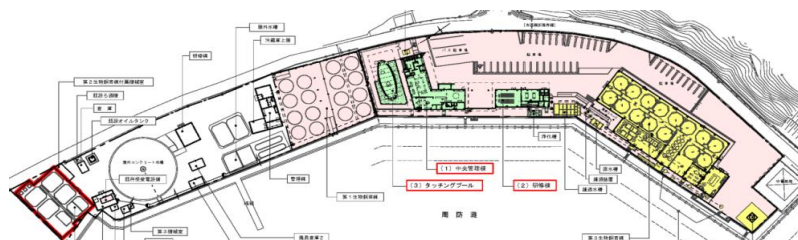
幅広い効果の創出

- 漁業、観光業、飲食業など、幅広い分野の生産性・収益性向上と雇用の創出
- 魚食の推進による健康増進、水産資源教育の推進及び漁業後継者の育成

(3) タッチングプール建設

地元の水産物に直に触れ、その新鮮さ等を楽しみながら実感する

観光を含めた交流人口の創出 | 訴求力の高い体験型施設による効果的な水産物PR



【下松市栽培漁業センター建設計画(抜粋)】

